

三重大学 CST 事業について 2

現職教員としての CST 活動

○角間由起子^A, 式井雅子^B, 森 直也^C

KAKUMA Yukiko, SHIKII Masako, MORI Naoya

四日市市立三重平中学校^A, 四日市市立内部小学校^B, 四日市市立中部中学校^C

【キーワード】 理科教育, CST 活動, 小中連携

1 目 的

この事業は、大学と教育委員会が連携し、CST 養成プログラムの実施を通じて、地域の理科教育の中核的な役割を担う理科教員を養成する事業である。県内に理科教育の拠点を構築し、CST が理科指導を苦手とする小・中学校教員に対して研修会等を行うことにより、地域の理数教育に関する指導力の向上を図ることを目的としている。研修の課題として、実践的なプログラムも行われている。

2 方 法

(1)研修会の実施

養成プログラムを受講し、得た知識や技能を多くの教員に還元する。

- ①四日市教育センター夏季教職員研修「楽しくわかる理科授業づくりの工夫と実践」(小学校理科対象) (7月24日 四日市)

(2)科学啓発活動の実施

子ども向け科学教室等を実施し、理科の楽しさを広める。

- ①ふれあい科学教室 (三重県 7月27日)
三重県教育委員会主催で小学生対象の講座を午前午後の2回行った。
②子ども科学セミナー(四日市 8月9日)
4月頃に四日市のCST研修生に2ブース分 (30分20人×3回)

3 成 果

研修会や科学啓発活動を行うにあたり、小学校の教員と中学校の教員の専門性の違いを生かし、役割分担をしっかりとすることでCST研修で学んだことを効果的に活かすことができるのではないかと考え、四日市のCST1期生中心にチームを組み活動した。

四日市教育委員会夏季研修講座として、三河小学校理科教育研究協議会は毎年若手教員や理科指導に苦手意識がある教員対象の基礎的な研修会を行っている。小学

校教員用の講座の企画・運営に参加させていただくことで、すべての教科を指導する必要がある小学校教員には理科指導に能力差があり、基礎的な実験・観察の技能を教員側が身につけ、すぐ子どもたちに還元できるような講座も必要とされていることや、教員にも理科の楽しさを感じてもらえるような研修会が必要だということがわかった。

小学生対象の科学啓発活動では毎年参加している子どもも多く、作業している様子からも子どもたちが科学的な活動をとっても楽しみにしていることがわかった。また、子どもの発達段階、作業時間、人数等により、準備や説明方法を変える必要がある。異校種連携をすることで同じ研修を受けているという土台の上で小学校教員の視点や中学校教員の視点で話し合いながら進めることができ、啓発活動運営の経験の少なさを補いながら企画していくことができた。

4 まとめ

今回、長年続いている研修会や科学啓発活動に参加させていただき、CST養成研修で学んだことを教員や子どもたちに還元することができた。小学校と中学校の教員がCSTとして一緒に活動することは、自分の学んだことをより深めるための新たな視点としても有意義であると感じた。

また、このような活動の準備・計画にはとても時間がかかるが、複数で活動することにより負担を少し軽減することもできた。

これから、教員としての仕事をしながらCSTとして活動していくことになる。市町教育委員会等の教育機関や他地域のCSTとも連携しながらどのような活動ができるか考え、CST養成研修で得たことをしっかり還元していく必要がある。